

就学援助入学準備金が入学後支給なら 「入学準備」に間に合いません



日本共産党

村上かずしげ

一貫して入学前支給へ

前倒しを求める

義務教育は無償です。経済的な困難を抱えている家庭の子どもが安心して学校に通えるよう支えているのが就学援助で、一定の基準を満たすと教材費や給食費、修学旅行の費用などが給付されます。鉚路市では小学生で20%、中学生で23%が受給しています。就学援助の中に「入学準備金」があつて、入学時に一時金が出ます。十分な額ではありませんが、学校に必要なものを買ったり、制服代の一部などに使えます。しかし、その入学準備金が入学した後で支給してほしいと思うのは当然です。支給時期を変更しても、長い目で見れば市の負担増はありません。新入学を迎える家庭に喜ばれることは間違いありません。

一昨年来、村上議員はこの問題を毎議会でも質問、入学準備金の前倒しと入学準備金の増額を求めてきました。しかし、市はその必要性を認めながら30年度予算でも前倒しを見送りました。30年度実施予定の自治体もあり、いまや

前倒しをしないのは、全道の市で鉚路、夕張、北斗だけになりました。冷たさと情けなさが際立っています。

他の会派も「やらない理屈を並べる鉚路市はひどい。党派を超えて絶対に実現しないと」「村上さんの提案には大賛成」と言うほどです。なんとしても前倒しの実現をかちとります。



入学準備金の金額が、これまでの2倍に増額

この問題を取りあげたきっかけはこんな相談でした。・・・

「子どもが今度、中学に入ります。就学援助に入学準備金があると聞いて、制服代にしようと思し込みましたが、4月にならないと出ないと言われまして。小学校の卒業式にはみんな中学の制服を着て出ます。うちの子だけ私服ではかわいそうで仕方がありません。」

カジノは絶対許しません

ここにきて、市は方針転換、当面は阿寒湖への誘致を棚上げして苫小牧への誘致に協力することになりました。大きな後退です。この際、鉚路市はキツパリ、カジノと手を切るべきです。

①賭け事で観光、経済活性化など邪道と言うほかはない。
②カジノ解禁はギャンブル依存症を確実に増やす。
③阿寒湖はカジノではなく、アイヌ文化とマリモを生かして。と主張しています。

村上議員は霞が関の担当者を訪ねて国の動きを調査、議会で市長と厳しく対峙しました。

昭和中央土地区画整理組合が、地権者に一方的にかけた賦課金と未納者に対して行った土地差押えの無効を求める裁判で賦課金は時効で消滅、差押えを取り消すという画期的な地裁判決が出ました。地価高騰の時にはボロもうけ、地価が下がれば土地所有者から賦課金を取りあげるという全国の土地区画整理組合の問題に、大きなインパクトを与えます。泣き寝入りせず闘った成果です。裁判は控訴審となります。原告のみなさんと一緒に、これからもがんばります。

舌巻しゅんせつ、立木伐採

阿寒町の市街地を横切る舌辛川。数年前に堆積土砂をしゅんせつさせましたが、また砂がたまってきました。川岸はびっしり雑木林。大雨の時に大量の倒木が川に流れ込んで「橋げた」にひっかかり、洪水になるのではと多くの人が心配していました。

昨年12月の議会でも、この問題を取りあげ、ただちに橋げたの倒木を撤去させ、今年になって堆積土砂の撤去と川岸の雑木林の大規模な伐採を行わせました。

「心配なことがなくなりましただ」と喜ばれていたところに3月の台風なみの暴風雨です。



鶴野東地区の雨水対策のために、星が浦川の河川改修と雨水管の設置、仁々志別の傷んだオンネナイ道路の改修についても、2月議会で取りあげました。

標茶や弟子屈では大きな被害も出ましたが、阿寒は先手を打ったおかげで大きな被害はありませんでした。

